

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

平成22年度50周年記念 第49回北海道博物館大会報告

北海道博物館協会は、2010年度に創立50周年を迎えました。今49回大会は記念大会として7月9、10日の両日、道央ブロック会員館園の協力のもと札幌市の北海道開拓記念館、道立近代美術館を会場に、延べ約210名の参加を得て盛大に開催されました。初日、総会・大会は開拓記念館でおこなわれました。シンポジウムのテーマは「博物館の将来像について語ろう」。50周年は、これまでわたくしたちがおこなってきた仕事を確認するとともに、これからを考えるにふさわしいと考えたからです。

道外から著名な方をお呼びするのではなく、道内の館園でユニークなお仕事をされている若手中堅の職員に、それぞれの職場での実践例を報告いただきました。釧路市立博物館の戸田恭司さんは「石炭を通じた地位内・地域間連携」について、札幌市青少年科学館の樋山克明さんは「プラネタリウムと動物園のコラボレーション～『星空動物園の取り組み』について～」、網走市立美術館の古道谷朝生さんは「博物館と美術館の連携～トーテムの物語・所蔵作品と北西海岸インディアンの版画展～二つの展示会と連携について」、札幌市円山動物園の朝倉卓也さんは「動物園における外部との協働そして課題と展望」、最後に記念館の池田貴夫さんが「北海道開拓記念館における外部機関との協働実例」というテーマで、それぞれ発表。とりまとめ役として北海道大学総合博物館松枝大治館長に司会をお願いいたしました。

テーマからもわかるように、実例といってもフォーカスは各館園をこえた連携を探ることでした。道博協あるいは日博協加盟の如何に関わらず、道内にはおおくの博物館、美術館、動物園水族館、科学館、文学館などの施設があります。各館種ごとには、横のつながりの組織があるのですが、もっとそれぞれの文化的施設が、館種を超えておたがひ連絡を密にできないか。共同で企画するこ



シンポジウムの討論より

とによってこれまでとはちがった、あたらしい楽しみ方を道民の皆さんに提案できるのではないだろうか。このようなコンセプトでしたが、議論はシンポジウムの時間内ではおさまらず、開拓の村でおこなわれた懇親会でも盛り上がっていたようです。もちろん、このテーマについてはすでに考えてこられた方もいらっしゃるでしょうし、また今後もいろいろな方法を試みていかねばならないものであることはいうまでもないことでしょう。そういった意味で、このたびの大会が、さらに話し合いを加速させるきっかけになればと思っています。

大会二日目は近代美術館で作家池澤夏樹先生の講演会を開催しました。演題は「博物館の中と外」で参加者は113名でした。

池澤先生は北海道に足場をおいて活躍しておられ、北海道（蝦夷地）を舞台にした小説もお書きになっておられます。先生はまた、大の博物館ファンでもあり、世界各地ご旅行の時には必ずといってよいほど現地の博物館や美術館を訪問されるそうです。ご講演では、大英博物館やルーブル美術館など世界的に有名な博物館のみならず、道内の博物館や動物園などもとりあげいただきました。「わたしの1点を見つけること」という池澤流の楽しみ方はあらためてご参考になったのではないのでしょうか。講演会は一般にも公開されましたので、これを機会に来館者が増えることを願っています。

(北海道博物館協会 事務局長 出利葉浩司)

道東3管内
News

『忠類ナウマンゾウ発掘40周年記念集会』開催

—道東3管内博物館施設等連絡協議会平成22年度交流推進会議—

平成22年度道東3管内博物館施設等連絡協議会の博物館交流推進会議は、今年で本発掘から40年を迎えた「忠類ナウマンゾウ発掘40周年記念集会」として同集会実行委員会、十勝管内博物館学芸職員等協議会との共催で7月11日(日)・12日(月)に幕別町忠類で開催しました。

構成は、初日に第1部「発掘同窓会」、第2部「シンポジウム」、第3部「忠類ナウマン象記念館見学」の3部構成、2日目は「巡検：ナウマンゾウ化石発掘現場の見学」としました。

「発掘同窓会」では40年前のナウマンゾウ発掘の記録がスライドショーや動画で上映され、ゾウ化石の出土状況、調査のようすなどが臨場感たっぷりに再現されました。その後、発掘を指導された亀井節夫先生(京都大学名誉教授)のお話もお伺いできました。

「今を見すえ50周年を望む—全国・北海道・十勝からみたナウマンゾウと忠類」と題したシンポジウムは、高橋啓一さん(滋賀県立琵琶湖博物館)による『忠類ナウマンゾウの新しい姿』、近藤洋一さん(信濃町立野尻湖ナウマンゾウ博物館)による



盛況だった会場のようす

『日本列島の氷河期を生きたナウマンゾウ』、北沢実(帯広百年記念館)による『十勝でヒトはどこまでゾウに迫ったか!?』の3本の講演・事例紹介がありました。高橋さんは、発掘資料中に、マンモスの化石が含まれていたこと、詳細な古環境復元ができたこと、ナウマンゾウは50歳程度の老獣であったことなど、最近の忠類サイトの再発掘や化石の再検討により明らかにされた情報が紹介されました。近藤さんは、ナウマンゾウ研究の現状、気候変動との関係、いつ・どうやって津軽海峡を越えたのかなどの講演でした。

会場は博物館関係者、自然史研究者はもとより、かつて発掘に携わった住民の方など70名ほどの参加があり、シンポでの質疑も活発に行われ、「忠類ナウマンゾウ」への関心の深さと愛着が感じられた集会でした。(帯広百年記念館 学芸員 北沢実)

網走管内
News管内博物館と各観光協会の連携事業
キャンペーン「不思議遺産オホーツク」

オホーツク圏の各博物館施設や歴史遺産を掘り起こし、知的観光素材として観光客誘致を図る平成22年度地域観光集中キャンペーン事業「不思議遺産オホーツク」が、管内各博物館施設と(社)北海道観光振興機構、オホーツク観光連盟、各市町村観光協会が連携して、7月～10月まで開催された。全道的な宣伝やパンフ製作と経費は同観光振興機構がもち、管内的な全体調整や宣伝は同観光連盟、知的観光素材の提供と事業は各博物館施設と地元観光協会が共同で行なった。

まず、札幌圏では6月19・20日に札幌ファクトリーで斜里町立知床博物館、網走市立郷土博物館、ところ遺跡の館、紋別市立博物館、遠軽町白滝総合支所蔵の土器や石器などを展示して「不思議遺産オホーツク」を宣伝。7月～10月までの事業は、スタンプラリーを北海道立北方民族博物館、網走市立郷土博物館、モヨロ貝塚館、斜里町立知床博物館、ところ遺跡の館、ピアソン記念館、ハッカ御殿、北見ハッカ記念館、紋別市立博物館、オムサロ遺跡公園、太陽の丘えんがる公園に置き実施するとともに、道立北方民族博物館ではモヨ

ロ人の世界展示説明会や土器型ストラップ作り、網走市立郷土博物館では体験教室「モヨロ人の暮らしを体験しよう」、モヨロ貝塚館では「謎の民族・オホーツク人を訪ねて」特別展示と現地説明会、斜里町立知床博物館では特別展示「チャシコツ岬下B遺跡」と発掘体験、特別ガイドプログラム「知床・自然遺産と歴史遺産、近代化産業遺産を訪ねて」、ところ遺跡の館では特別公開「遺跡の森と原生花園を訪ねて」オホーツク古代人の衣装でお出迎え、土器復元・火おこし・石器作り・石斧伐採体験・土器作り・勾玉作り、ところ遺跡と近代化遺産のコラボレーションツアー、北見ハッカ記念館では蒸留実演とハッカ油プレゼント、紋別市立博物館では博物館とオムサロ遺跡古代ロマン体験ツアー、北の黄金伝説体験ツアー、番屋体験とコムケの自然ツアー、オムサロ遺跡公園では期間中遺跡と公園内動植物解説、遠軽町白滝総合支所では石器作りや火おこし体験、特別公開「白滝黒曜石遺跡ジオパークとマンモスハンターを訪ねて」で黒曜石原産地ジオツアー、白滝黒曜石ジオパーク特別展、石器作り・火おこし体験教室などが行われた。

各博物館では新たな知的観光素材や体験講座の掘り起こしになり、入館者も期間中では昨年の倍増となり、有意義な事業となった。

(紋別市立博物館 館長 佐藤和利)

道北3管内
News

『伊能大図』北海道部分(縮尺1/2) 常設でのフロア展示を開始

昨年度は間宮林蔵が間宮海峡発見から200年を記念し、宗谷管内や北方地域の人と歴史をテーマとした特別展やシンポジウムなど、様々なイベントを行い、稚内市北方記念館も大きくリニューアルいたしました。

今年度も、さらに資料の充実を図るため『伊能大図』北海道部分(縮尺1/2)のフロア展示を4月29日より開始いたしました。伊能大図は2001年にアメリカで模写本が発見され、その全容が明らかになりました。今年度は北海道部分37図のうち、アメリカ伊能図34図と、2004年に海上保安庁で発見された「蝦夷宗谷図」(主に稚内が描かれた部分)の計35図を縮尺1/2の複写にして展示を開始しております。なお2001年に国立歴史民俗博物館で発見された残りの2図も、同館の協力をいただきまして来年度より合わせて展示できるよう現在準備しているところです。

伊能図の西蝦夷地部分は伊能忠敬が、東蝦夷地は間宮林蔵が測量を行ったと伝えられています。また伊能大図の北海道部分には、19世紀初頭に忠敬や林蔵がアイヌの人々から聞き取りを行ったア



『伊能大図』北海道部分展示のようす

イヌ語の地名がカタカナで記載されています。その点からも当館では伊能大図の北考え、広く市民の方々や来道部分を貴重な資料と館者の皆様実際に地図の上を歩きながら、感じていただきたいと考えています。

実物1/2の複写ですが全体の大きさは7m×9m。常設展示としては十分迫力のある資料だといえるでしょう。19世紀に描かれた正確な地図に驚かれる方、地図を虫めがね使い熱心にご覧になる方、地図に描かれたアイヌ語の地名と現在の地名を比べてみる方……。来館者にも大変喜んでいただいております。今後もサハリンに隣接する稚内から、北方地域の歴史を発信できるよう努力していきたいと考えています。

(稚内市教育委員会 学芸員 斉藤譲一)

日胆地区
News

平成22年度日胆地区博物館等連絡協議会 総会・研修会の開催

日胆地区博物館等連絡協議会平成22年度総会と研修会がアイヌ民族博物館とポロトの森自然休養林を会場に、6月10日・11日の2日間の日程で開催され、29名が参加しました。

総会は、人事異動に伴う役員の選任にはじまり、前年度事業・決算報告と今年度事業・予算案について協議されたほか、加盟館園拡大への取り組みや『胆振日高の博物館MAP』の活用など連携体制についても協議されました。

今年度の研修会はテーマを「アイヌ文化に学ぶ」とし、アイヌ文化継承の現状や植物利用、野外活動におけるアイヌ文化活用の提案など3名の講師による講演及び演習がおこなわれました。

この3月までアイヌ民族博物館の学芸員であった北原次郎太北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授からは「アイヌ芸能の再生～team nikaopの挑戦～」と題して、昨年9月にユネスコ世界無形文化遺産に登録されたアイヌ古式舞踊の概要をはじめアイヌ民族博物館や旭川、美幌など各地域にルーツをもつ若者たちの芸能の復元作業の取り組みについて紹介したほか、博物館での現



研修会のようす

代展示等への活用についても話されました。講演②ではパク・ピョンゼ(朴炳宰)アイヌ民族博物館客員研究員が「北海道の植物ー利用及びその効果」と題して、北海道に自生する植物の中でアイヌ民族が有用してきたものを中心にその成分と効果について紹介しました。2日目は現在ウトナイ湖ネチャーセンターインターンレンジャーの安田千夏氏が「自然ガイドに活かすアイヌ語と口承文芸の世界観」と題して、アイヌ語の植物名や発音などについての簡単なレクチャー後、アイヌ民族の植物の利用や口承文芸に描かれる植物神について紹介しながらポロトの森休養林を90分かけて散策しました。また、アイヌ民族博物館の展示解説等の多言語表記についての紹介もおこないました。

(アイヌ民族博物館 副館長 村木美幸)

石狩・後志
空知地区
News

アナログとデジタルのネットワークを活用 平成の「生れ出づる悩み」コンテスト2010

2010年は木田金次郎が有島武郎の住宅を訪れた年からちょうど百年にあたります。以前から木田金次郎美術館と協力事業を組上していましたが、お互いに指定管理者制度や事業費削減等の中、具体案に至らずに時が過ぎていました。そんな折、数年前に博物館相当施設に登録したことが、文化庁の助成金取得の可能性に繋がり、事業計画へと歩みだしたのです。この助成事業は「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」というもので、地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業のいずれかに該当することが条件となっており、地域との繋がりがりや文化振興の視点から“温故知新”100年前のエピソードを基に将来に繋がるような事業を志向しました。そこで企画したのが、単純に作品の善し悪しを判断するのではなく、市民に紹介したい作家を選ぶコンテストと入選作家による展覧会の実施です。結果として助成を受けることはできず、情報のやり取りのほとんどを電子化し、事業規模を縮小して予算を約10分の1まで節減、多くの皆様からの協力を取り付け実施へとこぎつけること



入選作家が顔を合わせたオープニング（開拓の村会場）

ができました。お忙しい中、協力頂いた皆様には本当にありがたく思っています。

そもそも、このような

取り組みを進めることができたのは石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会や学芸職員部会、美術館学芸員研究協議会などの機会に多くの方に出会うことができたからです。故事来歴を新たに作ることはできませんが、新たに繋がる人脈から、発想や事業の可能性が広がっていく機会をうまく利用していきたいものです。また、認識しづらい博物館登録制度や博物館協会加盟のメリットについても、活用の視点から見直していくことが必要なのだと感じた事業となりました。皆様の館園事業の中に相応しいものがあれば、当コンテスト入選者に声を掛けて頂き、発表・活躍の場を提供頂けると幸いです。初めは小さな事業でも、博物館園・作家・地域のそれぞれに利する活用へと広がって欲しいと思っています。

（財団法人北海道開拓の村 学芸員 細川健裕）

道南ブロック
News

市立函館博物館平成22年度特別展 「縄文の至宝—世界遺産をめざす15遺跡と土偶—」

本展は、函館市の国史跡大船遺跡をはじめとした「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」15遺跡がユネスコの世界遺産暫定リストに掲載されたことを記念して、平成22年7月24日～9月26日までの65日間（実開館日数56日間）にわたって、市立函館博物館第1展示室において開催した。展示室は中心に函館市著保内野遺跡出土の中空土偶と八戸市風張1遺跡出土の合掌土偶（複製）を展示するとともに、周囲を縄文時代の「じだい」「くらし」「わぎ」「こころ」の4コーナーに分類し、「じだい」のコーナーでは外ヶ浜町大平山元I遺跡（縄文草創期）・八戸市長七谷地貝塚（縄文早期）・函館市大船遺跡（縄文中期）・つがる市亀ヶ岡遺跡（縄文晩期）を、「くらし」のコーナーでは一戸町御所野遺跡（住居）・青森市三内丸山遺跡（採集）・七戸町二ツ森貝塚（陸獣狩猟）・伊達市北黄金貝塚（海獣狩猟）・洞爺湖町入江高砂貝塚（漁労）を、「わぎ」のコーナーではつがる市田小屋野貝塚（貝輪）・八戸市是川石器時代遺跡（漆）を、「こころ」のコーナーでは鹿角市大湯環状列石・森町鷺ノ木遺跡・青森市小牧野遺跡・北秋田市伊勢堂岱遺跡（いずれ



国宝中空土偶（函館市蔵）

もストーンサークル）を各遺跡出土資料とともに紹介した。また同時開催で本館ロビーにおいて青森市教育委員会共催の「移動縄文展」を開催し、期間中はJr.考古学ハカセ養成講座と称した「土偶作り」、「一日学芸員体験」、「石器作り」、「勾玉作り」、「遺跡発掘体験」などの小学生向け講座を開催するなど、

まさに「縄文文化」一色の2ヶ月間となった。

現在函館市では、平成27年を目処に「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産への正式登録をめざして活動を続けている。また、平成23年秋には函館市南茅部地区に函館市縄文文化交流センターがオープンし、国宝中空土偶が常設展示される見込みとなっている。これらのことから、「縄文文化」がこれからの函館市の生涯学習、ひいてはまちづくりの核となることは明白であり、国宝と世界遺産をテーマに据えた本展はその嚆矢となったと言えよう。

（市立函館博物館 学芸員 大矢京右）

動物園・水族館
News

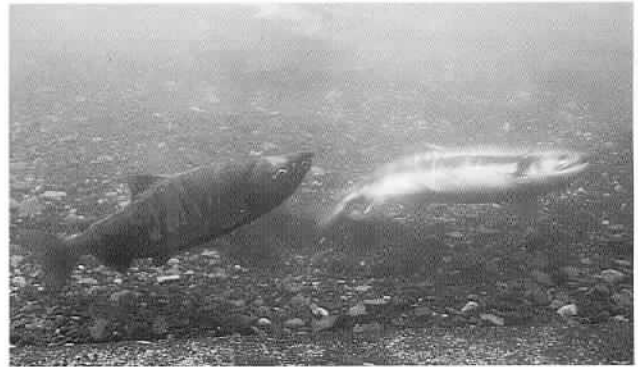
サケの季節到来

—千歳サケのふるさと館より—

千歳サケのふるさと館は、平成6年9月に開館したサケ属を主体とした北方圏の淡水魚水族館です。最大の特徴である、千歳川に泳ぐ魚たちをのぞくことができる「水中観察室」は、千歳川の護岸を観察室にしたもので、世界でも類のない設備です。高さ5m、266tの大水槽を始め、約70基の水槽で、サケ属を主体に約100種の水生生物を展示しています。

館内には幅約9mのワイド画面により、神秘的なサケの一生を紹介しています。教育活動については、夏休みを中心に小・中学生を対象とした体験型の学習会としてサケのふるさと館に宿泊しながら水族館の仕組みや飼育業務を体験する「アクアリウムナイトツアー」や「館内写生大会」、年末には一般参加者を募った「水族館の大掃除体験」など様々な学習講座を開講しております。

また、来館者を対象とした水生生物の観察会やサケ皮を使用した工作など様々なテーマによる教室を毎月第2・第4土曜日に「サタデースクール」として開催しております。さらに、出張学習では、市内小・中学校を対象にふ化観察水槽の設置など



冬にはサケの産卵行動が観察できます

サケに関する学習には学芸員が対応しております。

平成17年6月には、インディアン水車など周辺の河川風景を活用した人と川とのふれあいをテーマとして造成された「サーモンパーク」を「道の駅サーモンパーク千歳」として供用が開始されたところです。

今年度の新たな事業として、サケのふるさと館を応援していただけるサポーター会員を募集したところ、全国各地から約4,000名の加入申し込みがありました。サケのふるさと館は、今後とも社会教育施設として市民に満足いただくよう、また、各地から訪れる皆様の期待に応えられるよう、より一層の努力を傾注して参ります。

(千歳サケのふるさと館 館長 木滑哲夫)

学芸員部会
News

学芸員部会・釧路研修会を終えて

—in 釧路市立博物館—

9月16・17日の2日間に渡り、釧路市で学芸員部会研修会が開催されました。釧路市立博物館を会場に、例年より多い40名を越える参加者があつまりました。毎回、研修会後の交流会で行われるさまざまな情報交換を参加者全員で共有するため、第一線で働く皆さんの現状や抱えている課題を、事前にアンケートで答えてもらい、これをもとに博物館のこれからを考えるという研修会としました。題して「博物館のここが足りない、どこが足りない」。穂別博物館の櫻井さんをコーディネーターにお願いし、アンケート結果をもとに意見交換を行いました。

アンケート項目が盛りだくさんということもあり、項目を絞って進め、博物館利用者状況や展示更新の有無、他施設などとの連携、資料の収集や調査活動などについて、現状が報告されました。アンケート結果の内容もふまえて概観すると、①世代交代も十分に進まない、限られた人員・予算・時間の中で、②所属する教育委員会からも博物館という機関が理解されず、③博物館活動の根本である調査活動も十分ではなく、④展示更新もまま



研究会のようす

ならない中、入館者増という数字を求められる状況で、⑤地域住民や他施設との連携を進めながら地域のために奮闘する姿が見えてきました。「地域の自然と歴史について情報を発信しているのは博物館以外にはない」という発言が終わりであり、我が意得たりと非常に力づけられた思いで研修会を終えました。また、今回のアンケート結果は各自で内容を読み込んだ上で次の一歩を進めてほしいと思いました。

2日目の実地研修では「石炭のいま・むかし」をテーマに、道内で最初の採炭地や釧路コールマイン、石炭輸送列車などを見学しました。

(釧路市立博物館 学芸専門員 戸田恭司)

青少年科学館
News

「JAXAタウンミーティングin札幌」の開催 —札幌市青少年科学館より—

去る7月10日に札幌市青少年科学館において、これからの宇宙航空開発について、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の職員と市民とが意見交換を行うイベント「JAXAタウンミーティングin札幌」を開催した。

登壇者が、かの山崎宇宙飛行士と国際宇宙ステーション(ISS)の日本実験棟「きぼう」の開発にも従事された長谷川執行役とあって、ほぼ10日間という短い告知期間であったにも関わらず、定員を大きく上回る応募があった。開催の決定から当日まで、あまり時間が無かったこともあり、十分なりハーサルを行う間もなく、本番を迎えた。

会場をプラネタリウムにしたものの、常設のスポットライトがないため、照明係はライトを携え右往左往し、大事には至らなかったものの山崎宇宙飛行士のプレゼンテーションの時に、再生したDVDの音声が遅れるというアクシデントにも見舞われた。しかしながら、登壇者のプレゼンテーションの間、メモを取りながら真剣に聞き入り、意見交換では何とか自分の想いを伝えようと挙手する熱心な参加者に助けられ、会場は熱気に



JAXAタウンミーティングin札幌を終えて

満ち溢れたものとなった。どの話題にも長谷川執行役は熱く、山崎宇宙飛行士は静かに、お二人とも丁寧にお話しされている姿が大変印象的だった。あっという間に2時間が過ぎて無事に終了。退場後も名残り惜しそうに山崎宇宙飛行士から科学館へ贈られた記念品や普段なかなか目にするのでできない本物の宇宙食をカメラで撮影したりと、余韻を楽しんでいる様子の参加者。今回、残念ながらご参加いただけなかった方々の思いも含め、JAXAに対する期待はとても大きい、ということを感じることができたイベントだった。このような活動の積み重ねが、今後、日本の宇宙航空研究開発の未来に役立つよう、私自身、札幌の地から応援し続けたいという気持ちになった。

(札幌市青少年科学館広報企画担当係長 楠 幸恵)

道美学芸研
News

消防車からウェディングドレスまで。 「カラー・パワー！」展 —北海道立近代美術館より—

「色」をテーマにした展覧会「カラー・パワー展」を企画するにあたり、色についてあれこれを考える機会をえた。

例えば、頭の中が真っ白になるという言葉。緊張のあまり、頭に用意したはずの原稿が、白紙に戻することをいう。ここでいう「白」は、何もない、いわゆるまっさらな状態。だから未経験者や初心者のことをシロウトと呼ぶのだろう。反対に、プロはクロウトになるわけだ。そんなふう言葉の中にある「色」をさがせば、実にいろいろある。真っ赤なウソに赤っ恥。この場合の「赤」は、あか(明)るみに出るの赤。まさに赤裸々に。

紅白や赤飯となれば、祝祭の赤、祭りの赤だ。特別の色が、特別の場を創出し、日常と非日常を区別する。最もカラー・パワーが発揮される場面といえる。神事の白や婚礼の白、葬儀の黒も、色の力を借りて、日常とは異なる空間を作り出す。色は集まった人々の意識まで変えていく。制服のカラー・パワーも、集団意識を動かす何かがありそうだ。色の文化史は、奥深いと思う。



明治時代の子どもの晴れ着

一方、
絵画や彫刻で使われる色は、あくまで芸術表現のための色である。形や線によらず、色だけで絵画表現を追究している作家もいる。豊かな想像力から

生み出された色は、見ているだけで、気持ちがいい。

「カラー・パワー！色って不思議！！」展(1月23日まで)では、各分野で活躍する現代作家の作品40点にくわえ、本物の消防車からウェディングドレスや緋(ひ)色の晴れ着、厄よけの赤の郷土玩具まで、生活資料約100点を紹介している。

(道立近代美術館 主任学芸員 五十嵐聡美)

館園の主な展覧会と普及事業 (2010年11月～2011年3月)

石狩

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

11/6 連続講座 石狩大学博物館
(1)石狩歴史学
「悪徳官吏富田信定の行状」

11/13 連続講座 石狩大学博物館
(2)石狩地球科学
「石狩の海・石狩の沼」

12月下旬～3月末
テーマ展「資料館のお宝2011」

2月下旬
野外講座「石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物」

北海道開拓記念館 (011-898-0456)

11/3 文化の日講演会
「(東北学)から北海道を眺める」

11/6, 20, 12/4
古文書講座 秋の陣
「古文書に親しむ (全3回)」

11/24 歴史講座「尼港(にこう)事件の碑をたずねて」

11/21 歴史講座「沖には異国船、芸能文化は花盛り—松前城下の社会と文化—」

11/28 体験講座「今昔ちえぶくろ—くらしを楽しもう—」

12/5 体験講座「『生命の設計図DNA』を抽出してみよう！」

12/12 歴史講座「幕末の日露国境交渉、その時現地では…？」

12/19 体験講座「絵馬をつくる」

1/29, 2/12, 26
古文書講座
「はじめての古文書 (全3回)」

2/19 観察会 森で探そう⑤
「野ねずみのあしあとをたどろう！」

2/20 体験講座
「羊毛を染めてみよう！」

3/13 フォーラム「松浦武四郎」

3/20 体験講座「ハンズ・オン アイヌの編み—どのように作られるのだろう—」

北海道開拓の村 (011-898-2692)

11/6 わら細工講習会 わらじづくり

11/13 わら細工講習会 ぞうりづくり

12/4・5 わら細工講習会 しめ縄づくり

12/19 年中行事
「冬至～カボチャ粥の提供」

12/23 「冬・むら・ロマン～むらのもちつき&クリスマス」

12/25・26 ピンホールカメラづくり

北海道立近代美術館 (011-644-6882)

10/29-1/23 常設展 モンパルナスの灯 エコール・ド・パリの群像

10/29-1/23 常設展
Northern Aspects#03 中江紀洋時の彼方へ

11/3 芸術週間関連事業 ショパン生誕200年記念ピアノコンサート

11/6 芸術週間関連事業 映画「モディイアリアーニ 真実の愛」

11/6 芸術週間関連事業 (社)美術館協力会主催「ジュニア・アートクラブ」

11/19-1/23 特別展 アミューズランドトウモロー2011 カラーパワー！

2/5-3/13 特別展「浮世絵細見 いきな女の江戸くらし」

2/5-4/10 常設展「日本の美 屏風・掛け軸・絵巻の世界」
特別展示「道産子追憶之巻」

2/5-4/10 ガレ・ガラスコレクション「エミールガレとナンシー派」

2/12 ミュージウムコンサート

3/19-3/27 第10回サッポロ未来展
「北海道新世代作家達の現在」

北海道立三岸好太郎美術館

(011-644-8901)

10/30-1/16 展覧会「三岸美術館でマ〜ルみつけた！」

11/1-7 普及事業「アートウィーク」(期間中無休、入場料無料、コンサート等いろいろなイベント開催。)

11/20 普及事業「おやこ土曜セミナー」

12/5 普及事業「マ〜ル記念日」

12/19-1/16
普及事業「たんけん美術館」

1/7, 8 普及事業
「とっておきワークショップ」

1/21-3/27 展示会「音楽のある美術館2」(会期中にたくさんの音楽イベントを開催。)

1/29 普及事業「ミニ・リサイタル」

2/5 普及事業「音楽のある土曜セミナー」

2/26 普及事業「ミニ・リサイタル」

3/5 普及事業「音楽とバレエのある土曜セミナー」

3/12 普及事業「ミニ・リサイタル」

3/26 普及事業「ミニ・リサイタル」

後志

小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

11/3 特別投影

11/3 星空観望会「木星」

11/6 運河館ギャラリートーク

11/13-23 自由研究作品展展示

12月上旬 企画展「われらの日記—戦時中の絵日記—」

12/11 自然観察会(午前のみ)

12月中旬 ミュージウム・ラウンジ

12月中旬 運河館ギャラリートーク

12/21 星空観望会「皆既月食」

1月上旬 冬休み関連行事

1/15-4/1 運河館・小さな企画展

1月中旬 運河館ギャラリートーク

1/22 ミュージウム・ラウンジ

2月上旬 みつろう講座

2月上旬 雪あかりサイエンス

2/20 海鳥観察会(午前のみ)

2月中旬 ミュージウム・ラウンジ

2月中旬 雪あかりの路関連行事

2月中旬 運河館ギャラリートーク

2月中旬 星空観望会「雪あかり」

3月上旬 企画展「新着資料展」

3月上旬 ひなまつり

3月中旬 ジュニア講座終了式

3/19 自然観察会(午前のみ)

小川原脩記念美術館 (0136-21-4141)

11/18-4/17 小川原脩「自伝風な展覧会—アジアの大地—」

11/18-2/6 不思議I「ふしぎ・この絵なんだろう…？」

2/9-3/27 「くっちゃんART展2011」

(財)北一ヴィネツィア美術館

(0134-33-1717)

9/13-12/12

特別企画展「栄光と美の遺産—黄金のヴィネツィアガラス展」

9/13-12/12

企画展「貴族が愛した品格と輝き—彩りの飾り脚ガラス展」

- 12/13-4月中旬 特別企画展「魅惑の
レースガラス展」
12/13-4月中旬 企画展「ゴッホ・ガラ
スモザイク絵画展」
12/13-4月中旬 企画展 ヴィネツイ
ア・仮面の祭典「カーニバル」

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)

10/23-1/16

きりりハコダテ！お宝漫遊

1/22-3/23 「折原久左工門展」

七飯町歴史館 (0138-66-2182)

11/26-2/6 収蔵展「火の系譜Ⅱ」

12/1 夜の博物館「ナナエガク1」

12/25 ジュニア探検クラブ
「そば打ち・もちつき」12/26 ふぁみりーでいみゅーじあむ
「もちつきべったん」

1/12 夜の博物館「ナナエガク2」

1/29 ふぁみりーでいみゅーじあむ
「つるしびなをつくろう！」

2/2 夜の博物館「ナナエガク3」

2/20 ふぁみりーでいみゅーじあむ
「つるしびなをつくろう！」2/26 ジュニア探検クラブ「雪に親し
む」(ひな飾り2/10~3/3)

3/2 夜の博物館「ナナエガク4」

3/5-24 パネル展「タイトルのない
はっぴょうかい7」

3/6 冬の探鳥会

3/19 ジュニア探検クラブ「開講式」

上川

旭川市科学館「サイバル」

(0166-31-3186)

11/3 秋の科学館まつり

11/13-12/12

ミニ企画展「外来生物展」

1/8-1/9 科学探検広場 2011

1/29-2/20 巡回展「ようこそ！雪と氷
の世界へ」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

(0166-55-1413)

10/9-1/16 企画展「本田明二展」

12月中旬 普及事業「子ども彫刻教室」

1/22-3/27

「中原悌二郎賞40周年記念展」

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

11/13 小さな自然観察クラブ
「ナチュラルクラフト作り」

11/19-12/5 企画展 空から見た名寄

12/11 小さな自然観察クラブ
「キャンドル作り」

1/8-1/19 丘の上学園作品展

1/12 勾玉づくり

1/14-1/22 企画展
「ホワイトマスター受賞展」

1/29 雪あかりコンサート

2/5-2/20
特別展「雪あかりメモリアル展」

3月予定 イグルー作り

3/5-3/31 「棚橋美術館作品展」

3/18-3/31 企画展「新着資料展」

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

9/18-11/28 特別展「ウルトラマン
アート！時代と創造〜ウルトラ
マン&ウルトラセブン〜」12/4-4/17 特別展「画家たちの七重奏
〜詩と思索のイマージュ〜」6/5-11/28 常設展「うつわのスピリッ
ト〜あそびの木箱から彫刻まで
〜」12/4-4/17
常設展「Fascinating Scenes
情景遊歩」

富良野市生涯学習センター

(富良野市博物館 0167-42-2407)

11/1-3/31

「富良野アートギャラリー」

3/21 第5回富良野の自然に親しむ集
い「早春の森を歩こう！シカ・
ワシウォッチング」**胆振**

室蘭市青少年科学館 (0143-22-1058)

11/3 5周年科学館祭

12/18-1/8 「CGポストカード展」

1/8-10 冬休み科学館祭

4~2月(毎週土日)
青少年クラブ4年~6年

4~3月(毎週土日)スポットサイエンス

4~3月(毎週木曜)

ファミリーサイエンス

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

11/14 版画講座「年賀状を作ろう」

11/20 博物館講座「北海道のガラス玉
—アイヌの装身具タマサイをめぐ
って—」12/4,5 冬の陶芸教室「好きな陶器を
つくろう」

12/4,5 体験学習「はく製づくり教室」

12/18 博物館講座
「大地が語る十勝の自然史」12/23 体験講座「じょうもん人と腕く
らべー勾玉作り—」

1/14-30 第29回「郷土美術展」

1/22 博物館講座「十勝のアイヌ伝説」

2/5-3/3 ロビー展「ひな人形展」

2/19 博物館講座
「アラスカの先住民文化」

2/16-22 後期陶芸講座終了作品展

3/19 博物館講座「大昔のとかち」

釧路

釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)

11/3 2010青少年のための科学の祭典
釧路大会

11/27 クリスマスツリー点灯式

12/18,19 クリスマスイベント「クリ
スタル☆クリスマス」12/21 天体観測会・星空キャラバン「宇
宙の神秘体験！皆既月食」12/23 プラネタリウム夜間特別投影
「子ども遊学館☆クリスマス」

1/6-17 冬休みイベント

2月 とり+かえっこ

2/26,27 ひなまつりスペシャル

3/25-4/4 春休みイベント

根室

根室市歴史と自然の資料館

(0153-25-3661)

11/26 歴史と自然の資料館講演会

2/18 学芸員講演会

4/7 藤野家文書解説会

4/21 藤野家文書解説会

網走

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

12/4 手打ちそば講座

2/5-3/6 写真展
「エゾリス〜オホーツク風物詩」2/21 第17回
「氷海の民」シンポジウム3/12-27 第7回
「博物館サークル活動作品展」